

「スープなそうめん」長大生の生活支援

「助け合える世の中に」

島原農高生徒ら500食贈る

新型コロナウイルスの影響で困窮する大学生を支援しようと、島原農業高の生徒らが25日、長崎市の長崎大文教キャンパスを訪れ、同校の生徒が開発に携わったインスタント食品「スープなそうめん」約5000食分（約90万円相当）を贈呈した。今後、大学側が希望する学生に配布する。「スープなそうめん」

は、同校の生徒が2009年から南島原市の製麺会社「山一」と計6種類を共同開発してきた。3分間ゆでた麺に粉末スープをかけて調理する。

今月中旬、大学生の困窮に関する新聞記事を読んだ生徒会メンバーが「先輩が開発した製品で困っている人を助けられないか」と教諭に提案し実現した。

贈呈式で長崎大の河野茂学長は「実家からの仕送りが減り、アルバイトもできず、食事に困っている学生がいる。学業を続けられるようにしっかり役立たい」と感謝した。

生徒会長の佐々木涼花さん(17)は「今は食事に困らない時代と違っていたが、現実は違



河野学長（左端）に「スープなそうめん」を贈呈する生徒会長の佐々木さん（中央）ら

うと知った。自分たちも進学を控え不安だが、困ったときは助け合える世の中になればいい」と話した。

【中山敦貴】

5月26日付
毎日新聞掲載